

訓練の習熟度を競う 仙北市消防訓練大会



規律訓練の部で優勝した角館消防団第2小隊の一行乱れぬ行進

仙北市消防訓練大会が7月2日、サンビレッジ角館落合球場駐車場を会場に開催されました。

仙北市になって最初の大会には市内23の消防分団が参加。小型ポンプ繰法の部、規律訓練の部で日頃の訓練成果を競い合いました。

小型ポンプ繰法の部では、雨天にもかかわらず各分団ともきびきびとした動きでホースをつなぎ、的に向かって放水する動作の正確さと操法の習熟度を競いました。規律訓練の部は、地区分団の選抜により9小隊が参加。指揮者以下21名が号令に合わせて規律正しく整然と行進していました。各部門とも上位3チームが7月23日に開催された大仙市仙北市美郷町消防訓練大会へ出場しました。主な成績は次のとおりです。

【小型ポンプ繰法の部】

優勝 田沢湖消防団第6分団 / **準優勝** 田沢湖消防団第7分団 / **3位** 角館消防団第8分団

【規律訓練の部】

優勝 角館消防団第2小隊 / **準優勝** 田沢湖消防団第3小隊 / **3位** 西木消防団第1小隊

角館まちづくりシンポジウム まちづくりは未来のために！

仙北市角館町の武家屋敷を活かしながら外町(商店街)の活性化を考える「角館まちづくりシンポジウム」が7月3日、角館樺細工伝承館で開催され、約110人が参加しました。

「地域まちづくりと実践」と題した基調講演で、講師の建築家で東京大学大学院工学系研究科社会基盤学教授の内藤廣氏は、「地方にとって今が分かれ道で大事である。現在、首都圏ではミニバブルといわれているが5年先はわからない状況で、国の補助金も減少する中で、今からきちんとしたまちづくりをした地方自治体が生き残ることができる」と警告。また、まちづくりのポイントとして 将来を担う子どもや若者を積極的に巻き込む 小さなことから始める わかりやすいアイテムに絞る 地元の建築家がしっかりすること、の4つを挙げました。

続いて、「外町のまちづくりについて」をテーマにパネルディスカッションが行われ、コーディネーターに(株)都市環境研究所代表取締役の小出和郎氏、パネラーには内藤氏、NPO観光商業研究会きたうら理事長の安藤大輔氏、駅通りのまちなみを考える会の堺研太郎氏、角館まちづくり研究所代表の嶋崎辰雄氏、田町武家屋敷ホテルチーフコーディネーターの藤原里香氏、石黒直次仙北市長が参加。「外町に多く残っている蔵を活用したまちづくりができないか」「年間200万人を超える観光客が



講師の内藤氏

来るので、商売のスタイル、考え方も変えなければならない」「角館は、観光バス対応の型になっている。鉄道利用者へも配慮し、“歩けるまちづくり” “歩きたくなるまちづくり”が必要」など、さまざまな意見やアドバイスが出されました。

